

団体名：利根川・荒川水源地期対策基金

氏名：志水 茂明

#### 地域

志水氏は、広く全国にてご活躍され、退官後は関東地方を中心にご活躍されました。

#### 略歴

昭和58年～昭和60年 建設省河川局開発課長  
昭和60年～昭和62年 国土庁官房水資源部長  
昭和62年～昭和63年 建設省関東地方建設局長  
昭和63年～平成4年 水資源開発公団(現(独)水資源機構)理事  
平成3年～平成19年 財団法人利根川・荒川水源地域対策基金理事  
平成19年～ 財団法人利根川・荒川水源地域対策基金理事長

#### 功績内容

志水氏は、昭和34年建設省に入省以来、中部・近畿・北陸及び本省において、河川行政、主にダム建設に携わり、技術面においても新工法であるRCD工法(固練りダムコンクリート打設工法)を最初に北陸で実施し、新技術の開発及び費用の縮減に務めるなど、水資源開発に大きく貢献されました。

昭和63年に建設省関東地方建設局長を退官された後は、水資源開発公団の理事を務められた他、財団法人利根川・荒川水源地域対策基金の理事として、滝沢ダムの基金事業を完了させるとともに、湯西川ダム・戸倉ダム・思川開発施設を基金事業として採択し、それまでに採択されたハツ場ダムと併せ、各ダムの負担協定締結及び事業実施に尽力されました。バブル経済の崩壊後においても、低金利による基金財政の立直しについてご活躍され、基金の財政基盤の確保について多大なる貢献がありました。

特に、戸倉ダムの中止表明に伴う事態收拾にあたっては、今後の水源地域対策のため、主導的役割を果たし、国土交通省や各都県と協議及び連絡を頻繁に行うことにより、第三者委員会が設置され、結果的にダム事業中止にも拘らず、基金事業は継続されることとなり、平穩に地元対応ができたことは、今後の水資源行政へ大きな貢献となりました。

現在は財団法人利根川・荒川水源地域対策基金の理事長を務め、当法人の新公益法人への移行に尽力されています。

